



No. 125 2021. 9. 15

明石市コミュニティ・スクールだより  
人をつなぎ 未来をつなぐ 明石のコミュニティ・スクール

# コミコミスクス

KOMIKOMISUKUSUKU  
明石市教育委員会事務局学校教育課



コミスク TwitterQR

## 目の前の子どもたちが大人になる 2030年代～2040年代 どんな社会に？

2018年に、総務省の情報通信審議会情報通信政策部会“IoT新時代の未来づくり検討委員会”で「未来をつかむTECH戦略」が取りまとめられました。こうした審議会があり、こうしたことがまとめられているというのも最近情報をもって知ったことですが、教育の世界だけを見てはダメなんだなとつくづく反省しているところです。

その概要をちょこっと紹介させていただきます。

The collage contains several key documents:

- 「未来をつかむTECH戦略」(CHANGE by TECH)**: A summary report from the Information and Communications Policy Committee, dated August 2020.
- 「未来をつかむTECH戦略」の背景**: Background information on the strategy, including demographic challenges and the goal of a 'Society 5.0'.
- 変革実行の8か条「MOVE FAST」**: Eight key principles for implementing change, such as 'Move fast, break things' and 'Fail fast, learn faster'.
- 2030年代に実現したい未来の姿(人づくり)「I:インクルーシブ」**: Vision for an inclusive society.
- 2030年代に実現したい未来の姿(地域づくり)「C:コネクテッド」**: Vision for a connected region.
- 2030年代に実現したい未来の姿(産業界づくり)「T:トランスフォーム」**: Vision for a transformed industry.
- 「実現したい未来の姿」からの選定による戦略策定**: Strategy formulation based on selected future visions.
- 「未来をつかむTECH戦略」政策パッケージ**: Policy packages for the strategy, including digital infrastructure and talent development.

参照：総務省 IoT新時代の未来づくり検討委員会より

[https://www.soumu.go.jp/main\\_sosiki/joho\\_tsusin/policyreports/joho\\_tsusin/iot/index.html](https://www.soumu.go.jp/main_sosiki/joho_tsusin/policyreports/joho_tsusin/iot/index.html)

このプランの背景には、人口減・高齢化・低成長等「静かなる有事」が進行している日本は課題が山積しており、それが既存の社会システムへのボディブローとなり、2030年代

までには経済や組織、インフラ、福祉等の仕組が立ちゆかなくなるおそれがあるという危機感があります。

「未来をつかむTECH戦略」は「静かなる有事」をチャンスと捉え、2030年代に実現したい未来の姿から逆算し、アグレッシブなICT導入により「変革の実行」に繋ぐための改革プランとして策定されたものです。そしてこの戦略の実行を通じ、日本の中長期的な成長戦略に掲げる「Society5.0」の実現などに寄与しようとするものだそうです。

こうした子どもたちが大人になる頃の時代を具体的にイメージしながら、実現したい未来の姿に向け、逆算しながら戦略を練られているということを知る中で、未来社会を生きる子どもたちの教育に携わる私たちが、子どもたちが生きる未来を具体的にイメージし、子どもたちの資質・能力をどのように育てていくかといった戦略を練ることなど今までしてこなかったのではと思います。だから今、一步を踏み出さないといけないのではと思います。そうした戦略を練るにあたっては、学校の中だけでなく、保護者・地域、そして子どもたちも一緒に10年後、20年後の未来を具体的にイメージしながら対話を始めていくことが必要なのだと考えます。

この「未来をつかむTECH戦略」はまだ平成の時代であり、コロナ前の2018年に取りまとめられたものです。令和へと時代も変わり、さらにコロナ禍で社会の変化のスピードは加速しているのではと思います。前倒しで急速に進んだGIGAスクール構想でも、未来を生きる資質・能力を育むためにどのように子どもたちの学びを創っていくかといった戦略を立てる前に、休校になった時のオンラインでの授業をどうするかといった対応に流されてしまっているのではと思います。保護者・地域、そして子どもたちも一緒に、2030年代～2040年代の時代を具体的にイメージしながら、必要な資質・能力を育むための対話を始めるためには、まず学校が取組む研究の方向を、未来社会を生きる子どもたちに必要な資質・能力を見据えた方向へ研究の舵を切る時期がきていると感じます。

サントリー社長の新浪氏の45歳定年制発言が炎上しています。45歳定年制になる、ならないではなく、そうしたことが話題になるくらい社会の仕組が急速に変わっていくという視点を持つこと必要なのではと思います。そして、子どもたちが生きていく未来社会で通用する力を育てる“全く新しい教育”を創造していくという思いを学校・家庭・地域が共有し、子どもたちと一緒に私たち大人も未来の創造者になる一步を踏み出す時期にきて

いると思います。

そんな未来社会をイメージする手助けになるのが総務省の若手職員26名による「未来デザインチーム」として、2030～2040年頃の未来社会をイメージし、その時代に生きる人々の暮らしについて創作された小説「新時代家族～分断のはざまをつなぐ新たなキズナ～」ではないかなと思います。一度目にされてはいかがですか。

[https://www.soumu.go.jp/main\\_content/000575129.pdf](https://www.soumu.go.jp/main_content/000575129.pdf)

一度、この小説をベースにした対話ができたらいいかなと思ったりしています。総務省の「未来デザインチーム」ではありませんが、これからの時代の教育を創っていく若い先生方や地域の方、保護者も巻き込んだ明石版「未来への学びデザインチーム」なんかができたら面白いなと思ったりします。みなさん、いかがですか。

(文責：北本)

## 新時代家族

～分断のはざまをつなぐ新たなキズナ～

総務省 未来デザインチーム